

Japón Argentina 会報

No. 28

20 de Abril, 2000

今日の話題

- アルゼンチン牛肉の輸入解禁、間近か 1
- タンゴはいつ日本に来たのか 3
- 速報 政治・経済動向** 4
- 協会再発足50周年とタンゴ日本選手権コンテスト 5
- 隨筆：アルゼンチンと私渡部 透 6
- <シリーズ>
アルゼンチン・ワインの通（つう）になろう③ 7
- 協会活動ニュース 8
- 新刊紹介：
「目賀田ダンス」..... 9

アルゼンチン牛肉の輸入解禁、間近か

ニ ューヨーク・
二 マンハッタンにある五つ星のレストラン「スマス&ワレンスキー」は世界最高のビフテキを食べさせて有名。そこではアル

ゼンチンの牛肉は世界のトップクラスとして格付けされている（キアラディア大使）。この世界最高のビフテキが、わが国のレストランにお目見えするのは、そう遠い将来ではなさそうだ。



アルゼンチン・ビーフ・セミナー

3月8日、幕張メッセの会議室では数十人の参加者が講師の説明に熱心にメモをとっていた。FOODEX JAPAN 2000—世界各国による食品オリンピックにあわせて、アルゼンチンから来日した農水省カセナベ次官ほか食肉関係者によるセミナーは、いつなく熱気に溢れていた。それは来る5月にアルゼンチンの牛肉が国際的にAFTOSA FREE（偶蹄病非汚染国）に認定される可能性への期待からだ。

アルゼンチンの代表は自国産牛肉は他の牛肉輸出国のものに比べて生産優位性があり、放牧環境が良いため汚染がなく遺伝子的にも優れており、かつ輸出先国のお好みにマッチした、つまりTAILOR MADEの牛肉の生産が可能な点を強調していた。伝統的な輸出先の英国、ドイツなど欧州各国のほかに、近年は米国、カナダ、台湾の市場にもすでに参入しており、日本でのパートナーを物色中との説明があった。

国際獣疫事務局（OIE）

来る5月にパリの国際獣疫事務局（OIE）で関係国による会議が開催され、アルゼンチンがAFTOSA FREEであることを国際的に認定する運びになっている。

アルゼンチン牛へのワクチン投与を中止してまる一年間、何らの異常がなければFREEと認定される国際ルールによるもので、その時期が5月にあたる。日本への輸入についてはこの時点から、日本とアルゼンチンの両国政府による協議が開始されることになる。

第二次大戦後におけるアルゼンチン牛肉のわが国への輸入の糸口が、ようやく確立されることになるのだ。

戦前のアルゼンチン牛肉は欧米とともに日本へもかなり輸出されていた。羊毛、牛皮、ケブラッチョとともに冷凍肉としてわが国に輸入されていた。

ブエノスアイレスから大阪商船の船で運ばれた冷凍肉は、宝塚少女歌劇場の食堂で「アルゼンチン・ビフテキ」として提供され、当時小林一三の新機軸としての宝塚少女歌劇とともに名物料理となり関西のグルメがわざわざ宝塚まで出かけたといわれている。

「当時の船はブエノスアイレスから神戸まで50日以上もかかり冷凍設備も不完全で、そのうえ赤道を通過していくので牛肉の熟成度はかなりすすみ、神戸に着く頃はちょうど食べ頃でしたね。宝塚歌劇場食堂でのビフテキの評判はそりゃ大変でした」と老船長の話。

日本政府の対応

「日本政府としては、今までの牛肉輸出各国からの(輸入)自由化のときと同じ様式のス



アルゼンチン牛肉事情を説明するカセナベ農水相次官（右）とキアラディア大使

ケジュールで技術的にチェックをすすめる。あくまでも技術的な措置であって、何ら政治的な意図はない」と農水省畜産局衛生課国際衛生対策室は指摘している。

日本側が提示するチェック様式にアルゼンチン側が如何に正当に対応するかがカギとなる。かつて米国、オーストラリア牛肉の輸入クオーター制の導入から自由化のときは多くの政治的な問題があった。アルゼンチン牛肉の場合も同じような障害が行く手を阻むのではないか、と懸念する声が聞かれる。

一が、いまは状況が変わっている。ウルグアイ、チリの牛肉もすでに輸入自由化されており、その上わが国の食肉マーケットにおける「和牛と輸入肉との住み分け」もほぼ定着している。名だたる日本畜産振興会もいまや機能していない模様だ。

アルゼンチン牛肉は現在、あの厳しい米国への輸入が自由化されている。米国が徹底したチェックをアルゼンチン

はクリアしている。ちなみに日本の牛肉は米国では輸入禁止である。このような情勢からアルゼンチン牛肉のわが国への輸入解禁は、突発的な事故一例が先日発生した宮崎県の偶蹄病事件のような事故さえなければ、年末か来年初頭には実現される可能性が大きいものと観測される。

売り込みの二正面作戦

和牛と輸入肉の国内での住み分けがほぼ定着している現状から、輸入肉どうしの競争のなかで、アルゼンチン牛肉の販売戦略は？

Jビーフ（米国）、OZビーフ（豪州）、ウルグアイ・チリ・ビーフのわが国のマーケットへの浸透状況を参考として、二正面作戦が有効ではないかとの見解がある。

それは他の競合ビーフと比べ、アルゼンチン牛肉は輸送距離にハンディを負っている宿命的な与件を考慮に入れる

(8ページへ続く)

タンゴはいつ日本に 来たのか

～加年松城二さんに聞く～

タンゴは、いつ日本に伝わったのだろうか。大方のタンゴファンは、目賀田男爵を思い浮かべるだろう。勝海舟の孫である目賀田男爵は、1920年代にパリ遊学した。顔のあざを取る手術も目的の一つだったが、パリでタンゴにとりつかれ、手術はそっちのけでダンスに熱中し、パリ社交界でダンスの名手の名をほしいままにした。1926（大15）年、沢山のタンゴレコードを携えて帰国した男爵は、友人たちのためにタンゴダンスクラスを開いたりしてタンゴの普及に努めた。その活躍はアルゼンチンでも高く評価されており、後年目賀田男爵に捧げるタンゴ「A Lo Megata」（目賀田風のタンゴ）がアルゼンチンで作曲されている。

「しかし」と、加年松城二（かねまつ・じょうじ）さんが調べたところはこうだ。

言語研究家の加年松さんは、中学生の時に出遭ったタンゴレコードに魅せられて以来タンゴ熱が冷めず、タンゴダンスの研究家としても知られる。目賀田男爵についてもいろいろ書いている方である。

アルゼンチンでタンゴ史の教科書のように扱われてきた

本がある。ブエノスアイレスのラジオでインタビュアーをしていたバテス氏が60年前に書いた「タンゴの歴史」である。この中に、1905（明38）年遠洋航海の練習艦サルミエント号が、できたばかりのタンゴ「ラ・モローチャ」の楽譜1,000部を積み込んで出航し欧州各地でこれらを配布したのが、海外でタンゴ隆盛となったきっかけであるという記述があり、長い間これが信じられていた。

ところが、これに反論したのが、エドムンド・リベロである。リベロは渋い低音でタンゴの心を歌い上げた大歌手であり、作曲家であり、1970年代にはタンゴレストラン「ビエホ・アルマセン」の経営者でもあった。「アルマセンのともしび」という自著の中で彼はこう述べている。「『ラ・モローチャ』の作曲が完成したのは、1905年のクリスマスの日だったが、このころサルミエント号はブエノスアイレスにいた。翌年『ラ・モローチャ』を積み込んでサルミエント号は極東に向かって航海に出た。タンゴが伝えられたのは日本が最初で、欧州



へ伝わったのはその次の年だ。」

Yo soy la morocha ... El fuego de amor ... この情熱娘が渡ったのは太平洋だったのか大西洋だったのか、加年松さんの調査が始まる。

アルゼンチン海軍省編纂の記録によると、サルミエント号については確かにリベロの言う通りである。サルミエント号は、1906年（明治39年）2月から11月まで極東地域を訪れ、長崎、呉、横浜に立ち寄っている。この年号は実は意味がある。これに先立つ日露戦争で、日本がアルゼンチンから急遽譲り受けた軍艦2隻が日本海海戦で大活躍し、日本アルゼンチン間には一気に友好関係が高まっていたのである。

東京毎日新聞の明治39年7月26日版は、同新聞記者のサルミエント号訪問記を載せている。また別の新聞は、横浜

政治・経済動向速報

小林晋一郎 東銀リサーチ・インターナショナル研究理事

オリエンタル・パラス・ホテルで盛大なサルミエント号歓迎パーティーが開かれ、軍楽隊の演奏があったと伝えていた。タンゴは演奏されたのだろうか?記録によると、オリエンタル・パラスは、フランス人が横浜海岸通りに開き、「電灯・電気扇風機を設備し、専用乗合馬車によりホテル駅間を送迎す。富士屋、軽井沢万平に並ぶホテル」とある。

残念ながらこのホテルはもう残っていない。このホテルの営業記録でも見つかれば、もう少し何かがはっきりするだろうが。

サルミエント号は、日本に入る前に、旅順、釜山などに寄り、日本のあとは豪州に立ち寄っている。しかし、当時の極東の状況、特に軍艦譲渡やそれに先立つ日本アルゼンチンの修好条約締結などの事情を考えると、サルミエント号将官の関心は日本に集中していたことは想像に難くない。サルミエント号に「ラ・モローチャ」の楽譜1,000部が積まれていたとすれば殆どは横浜で配られたと考えてもおかしくはない。

写真は、加年松さんがアルゼンチンで手に入れた初版の楽譜からとったものである。世界にさきがけて日本に上陸したタンゴの「モローチャ娘」君は今どこにいるのか。
WANTED!

河崎勲

(ダンコムジャパン
代表取締役)

テレコム社とテレフォニカ社は3月1日より電話料金を商業用で19.5%、家庭用で5.5%の引き下げを実施した。

~~~~~  
第1四半期の経済成長率を年率3%、通年の成長率は4%になろうと経済省顧問が予想していることを明らかにした。成長の牽引力は輸出と消費である。

~~~~~  
アルゼンチン調査機関エキス社の調査によれば、全国民の20%が貧困層で年間所得は781ドル(月平均で65ドル)、1日平均で2.2ドル、政府が発表している1日の基礎食料費8.5ドルを大きく下回っていると発表した。

~~~~~  
アルゼンチン企業のブラジル移転が問題視されているが、ブエノスアイレス州はブラジルへ工場移転した企業または移転を計画している企業を州の納入業者リストから外す意向を示唆した。アルゼンチンから過去数ヶ月で約100社がブラジル州政府の提供する優遇策に魅せられ工場移転を決定したと伝えられている。

~~~~~  
スペインの大手銀行サンタ

ンデル・セントラル・イスパノ銀行はアルゼンチンのリオ銀行の株式71.9%を保有しているが、残る株式につき株式交換方式で公開買付を行い同行を完全子会社化する方針を発表した。

~~~~~  
2月10日、現在流通しているペソ建て、ドル建て国債BOCON、その他期限の短い債務を2003年または2005年償還の国債BONTESに交換した。昨年の資金調達実績と今年の計画は以下の通りである。

(単位、億ドル)

|         | 1999年 | 2000年 |
|---------|-------|-------|
| 国際機関    | 14    | 15    |
| 債務交換    | 5     | 10    |
| 民営化収入   | 23    | 7     |
| 国内債発行   | 40    | 45    |
| ドル建て外債  | 46    | 50    |
| 円・ユーロ外債 | 69    | 48    |
| 合計      | 197   | 175   |

~~~~~  
1月28日、政府とIMFとの間で74億ドルの拡大信用供与につき基本合意が成立した。金額は現在の28億ドルから74億ドルに拡大された。緊縮予算、税制改革法(所得税の増税、付加価値税の課税対象拡大など)が成立したことが好

感を持って受け入れられた。政権発足直後のこれら成果によりマーケットのセンチメントが好転した。州政府財政赤字を含めた財政赤字目標を69億ドル、健康保健機構PAMIを含めた連邦政府財政赤字目標を45億ドルとされた。なお、財政赤字目標は69億ドル（2000年）、42億ドル（2001年）、15億ドル（2002年）、2008年に財政均衡となっている。

アルゼンチン工業連盟UIAは、ブラジルの安い生産コストと税制上の優遇策により過去1年間で約100社が工場の一部または全部をアルゼンチンからブラジルへ移転し、約1万人の雇用が喪失したと報じた。ブラジル通貨の切り下げが契機となり、自動車部品産業を中心に国内生産を取り止めブラジルへ移転した。

1999年の外国直接投資受け入れ額は前年の61.8億ドルから大幅に増加し210億ドルとなった。これはスペインの石油会社レプソルによるYPFの買収（約130億ドル）があったことによる。

1月20日、政府はユーロ債（期間5年）4億ドルを世界で初めてインターネット経由で発行した。これまでアルゼン

チン国債にアクセスできなかった新規投資家を開拓し、発行コスト削減することとなった。当初発行予定額2.5億ドルを上回るレセプションがあり4億ドルの発行となった。

3月、ダラス連邦準備理事会主催の「ドル化セミナー」に招待されたメネム元大統領は、アルゼンチンはドル化によりコンパーティビリティー・プランをより一層強固なものにすることが出来ると持論を開いた。

カバロ下院議員・共和国行動党党首（前経済大臣）はヌエバ・ディリヘンシア党党首のゲスタボ・ペリスと組んで5月のブエノスアイレス市長選に出馬する意向を固めた模様である。

3月、ガリシア、フランセス、リオの3銀行は州債務のリファイナンスに向けるために地域開発信託基金に総額12億ペソの融資を行うことを決定した。

日本アルゼンチン協会設立70周年（再開50周年）記念 タンゴ・ダンス日本選手権コンテスト（予定）

1930（昭5）年に当協会が設立されて今年は70周年、戦後の混乱期の1950（昭25）年5月23日にエバ・ペロンが日本に贈ってくれた小麦を満載したリオ・アガペイ号が横浜に入港した直後、わが国の国交再開の前年に協会が再発足して50周年。

この先駆的な行事を記念するために、在日アルゼンチン大使館の全面的な協力のもとに「COPA ARGENTINA（アルゼンチン共和国杯）争奪タンゴ・ダンス日本選手権コンテスト」を、来年5月に開催すべく準備を進めています。

厳正中立な審査が望まれる必要から、当協会が中心になって関係団体と協議しつつ慎重に事を運んでいます。

ご意見、ご注文、アイディアなどを協会事務局あてお知らせ下さい。

シリーズ・アルゼンチンと私(3)

渡部 透 当協会前事務局長 元領事

アルゼンチンに約3年(1991~1993)在勤(大使館)し、仕事柄在留本邦人や日系人との関わりが密接で週末には日系人団体の各種行事にお招き頂き大変お世話になりました。色々あるよもやま話から実際の体験を披露させて頂きます。

運動会に雹

ある10月の日曜日ブエノスアイレス日亞学院の恒例の運動会が首都の郊外西約8キロぐらいに位置するカステラルの「うるま園」(沖縄県人連合会所有)で開催されました。同学院の生徒約350人及び父兄多数が参加する盛大な運動会です。競技種目も本邦の学校とほぼ同じような徒競走、借り物競争などが行なわれ、弁当を広げて楽しい一日をすごしていました。優勝チームにはカップを授与し、入賞者には数々の賞品が手渡されます。ここまで何の変哲もなく運動会が進行しましたが、昼食後、一天にわかにかき曇り、突然雹が2分ぐらい降りはじめ一面雪が降ったように真っ白になりました。参加者一同蜘蛛の子散らすように建物や木陰に避難しました。その雹たるや卵の大きさで爆弾

でも落ちてきたかのようなすさまじいもので、筆者も腰を抜かす程驚愕しました。頭に直撃したらこぶができるか、脳震盪を起こしかねないサイズでした。かねてより中南米紀行文などで、場所によっては卵やメロン位の雹が降るとは聞いておりましたが、まさか目の前で卵大の雹が降るとは、びっくりしました。ブエノス・アイレス市の郊外では、多くの日系人などが花卉栽培や野菜栽培を営んでいるので温室(ガラス)やビニール・ハウスが甚大な被害を蒙ることがあります。

日本製アコード

ついでの続話として、当日私は、公用車の都合がつかないので私用車(本田技研工業(株)のアコード)で運動会場へ行き、木陰が少しある場所に駐車してました。ところが、上記の卵大の雹が降ってきましたので、車体や窓ガラスに当たりボコボコと音がして、ガラスが割れるのではないかと真っ青になりました。しかし、帰国時迄にデコボコした車体を修理しないと売れないのではないかと心配し、日系人などに雑談のなかで感触を伺いましたが、修理するには

及ばない結論に達しました。外見上デコボコは素人には判らない程度のものでした。さて、いよいよ帰国する事に決まり、新聞広告を出したところ、反応があり、自動車を見にきた中にブローカーがおり、ためつすぐめつ「だいぶデコボコがありますなあ」と言ってエンジンの調子を確かめもせず外見だけみて評価するので腹が立ちました。その内ある夫人がみえ、車体には関心がなくエンジンの調子をみて満足顔で、このアコードは日本製であるのか、米国製なのかと妙な質問をするので、勿論日本製と答えた処即座に商談が成立しました。当時、日本の自動車会社は生産コストの関係で外国での生産、組立が主流となり、本田技研工業(株)も、アコード、シビックの生産拠点を米国に移していました。偶々私が帰国する半年前に在米日本大使館の書記官が、在アルゼンチン日本大使館に転勤してきましたが、同人は米国製初期の本田車を輸入しました。当時アルゼンチンでは、日本製か米国製かで評価が異なり、日本製の信頼性が高く価格の上で若干有利であったことは歪められない事実であり、私が日本より輸入した車が日本での最終時期の生産車であったことが幸運であったとしみじみかみしめている今日この頃です。

<シリーズ>

アルゼンチン・ワインの 通(つう)になろう③

ワイン銘柄と特徴

① メンドーサ (Mendoza)

¥1,600

97 ヴィンテージ：濃いルビーレッド色をし、緑は紫がかっている。ノーズでは、カラントの含みを持つ。魅力的なベリー類の香りに、ピーマンとスパイスのアクセントが伴う。ライト～ミディアムボディできれいにまろやかに

なっており、しなやか、フルーツの良い濃縮度がある。快く余韻の長い後味は、果物とスパイスの含みを持ち、余韻がずっと長引く。

② トソ (TOSO) ¥2,000

96 ヴィンテージ：鮮やかなルビーレッド色
熟したフルーティーな香り。
ピーマンとワイルドベリーの

アロマを持つ複雑でよくバランスの取れたワインで長くスパイシーな後味が赤身の肉・スパイシーな料理と合う。

* 1、2ともに1ユニット(6本)でお申し込み願います。

送料は全国900円、消費税は別途かかります。

小売はしていません。

■輸入業者：ピーロート・ジャパン(株)(当協会員)

〒108-0075 港区港南2-13-31

品川 NSSビル5F

Tel: 03-3498-4073

(担当:早乙女 昭子)

Fax: 03-3479-1120

アルゼンチンは、皆さまを待っています

世界一周クルーズ船「にっぽん丸」(商船三井客船)の出航式(3月16日、東京・晴海桟橋)でルビオ・レイナ アルゼンチン総領事が日本語で語りかけたメッセージ(抜粋)



クルーズ客と見送りの人達に語りかけるルビオ・レイナ総領事

アルゼンチンは、日本のように四季がはっきりしており、皆さまが到着するころは初秋です。夏の暑さが終り、自然が豊かな表情を見せるころです。

アルゼンチンにいる日系人は僅かですが、「おすしのわさび」のように私たちの社会、文化にインスピレーションを与えてくれ、日本を理解する上で大きな助けとなっています。日本の皆さんは大切な友人です。

アルゼンチンで皆さまは、心に残るバケーションを満喫されることでしょう。タンゴやフォルクローレの調べ、美しい景色の数々。タンゴはアルゼンチン人の心を歌っています。

アルゼンチンにいらしたら、おいしい牛肉とワインをぜひ味わって下さい。ブエノスアイレス郊外のパンパを訪ね、ぜひアサードを召し上がって頂きたいと思います。

皆さまどうぞよいご旅行を。アルゼンチンは、皆さまを待っています。

テアトロコロン閉鎖? 市当局は否定

アルゼンチンが世界に誇るテアトロコロンが閉鎖されるのではないかとの噂が流れ、クラシック音楽愛好家やオペラ・バレーファンを心配させている。

これは、テアトロコロン幕開けに予定されていたチャイコフスキーオのバレー「眠れる森の美女」の公演が劇場従業員の争議のため二度にわたって中止されたことから出たもの。

劇場を管理するブエノスアイレス市当局は、劇場経営が困難な状況にあることは認めつつも閉鎖はありないと噂を否定している。

(ラプラタ報知紙より)

協会活動ニュース

- (1) 「実用スペイン語」春季講座を開講しました。
講座の種類及び期日:(定員は夫々のコース18名、先着順)

初級 (発音、会話などやさしく楽しい入門コース)
4月14日(金)より7月7日(金)まで
毎週金曜日 12回

中級 (実用会話、読書を楽しんでレベル・アップ)
4月18日(火)より7月14日(火)まで
毎週火曜日 12回

講師は好評のリナB.フェララ(総領事夫人)先生

講習時間:18:30より20:30まで(2時間)
当協会3階教室

受講料:	(初級コース)	(中級コース)
一般(非会員)	35,000円	37,000円
会員	25,000円	26,000円
学生	20,000円	22,000円

- (2) 好評のベヘレイ・ツアー(群馬、安田養魚場)を、10月21日(土)に実施することになりました。詳細は後日お知らせしますが、予めマークしておいて下さい。
- (3) 連載中のARGENTINE ECONOMIC UPDATEは当分の間中止になったと、アルゼンチン大使館より連絡を受けました。
- (4) 求む、パソコン
アルゼンチン協会では、会員の皆さまとのコミュニケーションをもっとよくするために、協会事務所にパソコンを置いてE-mail通信ができるようにし、将来はホームページを作成して皆さんに自由に情報を取り出してもらえるようにしたいと思っています。協会の財政が豊かではありませんので、中古で我慢したいのですが、どなたかパソコンを処分したいと考えておられる方は、(有料で)譲って頂けませんでしょうか。できればウインドウズのノート型がいいのですが。

(2ページから続く)

と①アサデーロによる本格的アサード(*)を提供する高級レストラン方式②成長甚だしいハンバーガー業者への参入パターン、が実効的ではないかというのだ。この見通しには、他の食肉専門家も支持する向きが多い。

いずれにせよ、アルゼンチン(そして欧米の一部)でしか食べられなかった世界のトップクラスの美味しいビフテキが日本で食べられる、その日が21世紀の始まりと共にやってくるのだ。

すでに来日しているアルゼンチンの「赤ワイン」と「タンゴやフォルクローレ」の真の鑑賞に致命的に欠けていたものが、ようやく補完され満たされる幸せな日がやってくる。

(*) 招聘した焼肉専門家(アサデーロ)により3時間以上かけて、ケブラッチョでじっくり焼き、なおジューシィなビフテキ

(専務理事 野村秀治)



連絡先:
FAX 03-3595-3932(協会)
E-mail:kawasaki@tkb.att.ne.jp
(河崎理事自宅)
nomushum@nifty.com
(野村専務理事自宅)

「目賀田ダンス」 一勝海舟の孫・目賀田綱美男爵が 拓いたもう一つのダンス史

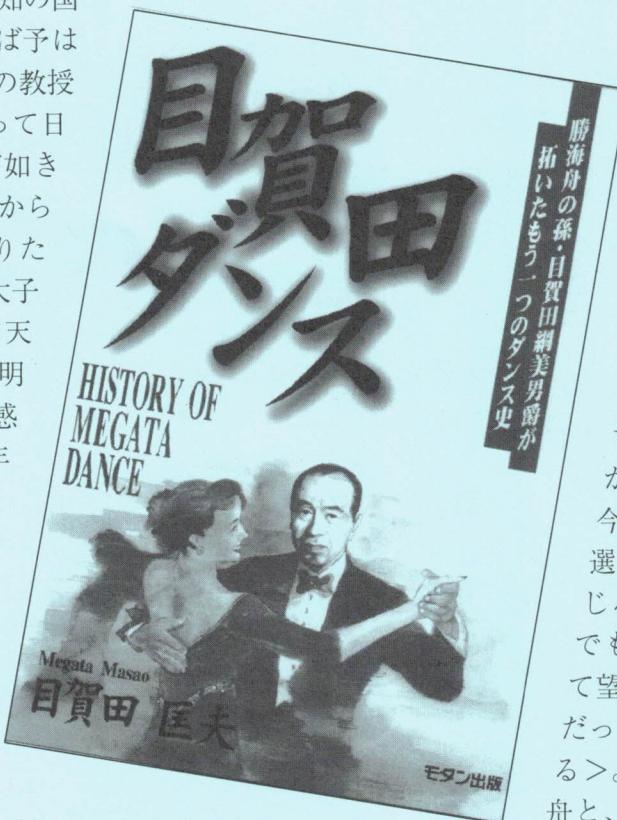
社交ダンスと、明治維新の偉人・勝海舟との知られざる関係とは？ 答えは、本書が紹介する“もう一つのダンス史”にある。

「佛國は予にとって未知の国にはあらず。何故なれば予は少年時代に一佛人教師の教授を受け、其の指導に依って日佛間の文化を隔つるが如き感ある深淵は、越ゆべからざるものにあらずと知りたればなり」に始まる皇太子裕仁親王（のちの昭和天皇）の初の訪仏での表明が、日仏両国民に深い感動を与えたのは1921年（大正10年）の事だが、実はこの頃もう一人の日本人がパリ社交界の注目を集めていた。目賀田綱美男爵。明治29年生まれ、慶應義塾に学んだ後、6年間をパリで過ごす。

パリの名門スタジオでダンスを習い、社交界に颯爽とデビュー。当時のパリはアルゼンチンからやってきたタンゴが大流行していた。パリ社交界は、奇しくもタンゴの音楽と共に登場したこのダンスの名手を「目賀田のタンゴかタンゴの目賀田か」と讃えたの

であった。

帰国後の綱美は、福沢諭吉が明治13年に創設した社交機関「交詢社」でダンスの指導にあたるなど、



英國の競技スタイルとは趣の異なる“社交のための”フランス式ダンスの普及に努める。その一方で昭和3年7月、我が国で最初のアルゼンチン・タンゴ・レコードの発売にも尽力している（本書では、綱美のタンゴ導入者とし

ての功績に1章を割いている）。

ところで、綱美の父種太郎は、東京音楽学校（現・東京芸大）や専修大学の創立に重要な役割を果たし、貴族院議員、枢密顧問官などを歴任した明治・大正期の要人。そして綱美の母逸子は、勝海舟の三女である。〈この父と母あってパリに遊び、「社交ダンス」や「アルゼンチン・タンゴ」に陶酔した綱美は、いかにも「不肖な道楽息子」に映るであろう〉。綱美の親戚で直弟子の著者は言う。〈しかし、もしそうならば、多額の仕送りをして放って置くような両親ではない。直ちにパリから呼び戻すか、勘当した筈である。今にして思えば、綱美が選んだ道は祖父や父に通じる開国の道であり、他でもない母・逸子によって望まれ、敷かれたレールだったと推量されるのである〉。続いて描かれる勝海舟と、その三女・逸子と、その長男・綱美との三代にわたる精神の系譜は、本書の白眉と言えよう。

目賀田匡夫著
定価 1600円+税
発行：モダン出版
(TEL.03-3814-7180)

文化行事

【※】は当協会員特別割引

■ アルゼンチン・タンゴ・ ショー&ダンスパーティー

日時：4月30日（日）

17:00～22:00

会場：浅草アサヒ・スクエアA
(墨田区吾妻橋1-23-1 F4)

ダンス：ファン&メリナ、
ケンジ&リリアナ他

入場料：5,000円ドリンク付
【※4,500円ドリンク付】

交通：銀座線 浅草駅下車
徒歩4分
連絡先：0422-79-2401（グスター
ボ・マルチエシ、当協会員）

■ 「エル タンゴ デ ラ タルデ」（午後のタンゴ）

日時：5月4日（木・祝）

13:00～16:30

会場：横浜プリンスホテル
桜の間

演奏：オルケスタ 岩崎圭子と
ラスタンゲラス東京

踊り：プロダンサー数組によ
るパフォーマンス有り

会費：10,000円【※9,000円】

（1ドリンク ビュッフェ付）
交通：JR 東北線（根岸線）磯
子駅下車（磯子駅バス停
6番より送迎バス運行）

主催：申込み：グルーポ ラ・
カデンシア（TEL045-
461-6020、原田裕子 当協
会員）

■ ノーチェ デ タンゴ (アットホームなサロン・ コンサート)

日時：5月13日（土）、17日（水）、
6月4日（日）土、日 18:00、
平日 19:30

会場：カルチャーカフェー
(杉並区荻窪 5-28-10)

入場料：2,500円（ドリンク付）
【※2,000円ドリンク付】

出演：バンドネオン 田辺義
博、歌とキーボード 清水
百合

交通：JR 荻窪駅 南口
黄色のビル 4F

連絡先：070-5716-8339
(清水百合 当協会員)

■ 第4回ユパンキ祭

日時：6月4日（日）11時集合

場所：山梨県河口湖町
円通寺・円形劇場

出演：グルーポ・カンデラリ
ア・高野太郎 他

会場：6,000円（昼食アサード
付き）

主催：ユパンキ祭実行委員会
連絡申し込み先：

0555-72-0279（田村美山）
03-3405-4344（高野太郎
当協会員）

■ アルゼンチンタンゴ & ワイン・パーティー

日時：5月28日（日）15:00受
付開始～20:00終了

会場：六本木 アーツシ
ティー B1「アーツ・スタ
ジオ」（港区麻布台 3-4-9
TEL3585-3988）

時間：15:00～17:00 タンゴ・
ダンス・レッスン

17:30～17:45 独立記念
レセプション（キアラ
ディア大使挨拶他）

17:45～19:30 タンゴ演
奏「タンゴ・クリスタル」
&ショー

19:30～20:00 リファ抽
選発表

20:00 終了

会費：(税込) 前売券 5,000円
【※4,500円】、前売ペア券
(2人) 8,000円、当日券
6,000円

申込み：日本ラテンアメリカ
交流協会
(TEL3310-3907、渡部
当協会員)

演奏バンド（予定）：

- (1) 小松真知子とタンゴ・
クリスタル&小松亮太
- (2) ファン・ギーダの
タンゴ・グループ
- (3) タンゴ歌手 エンリケ
岩尾

交通：日比谷線 六本木駅又は
神谷町駅 下車徒歩8分

主催：日本ラテンアメリカ文
化交流協会、(株) アーツ
シティ

後援：アルゼンチン共和国大
使館、(社) 日本アルゼン
チン協会

お知らせ

■ ガウチョおじさんのアルゼンチン情報ネットワーク

ホームページ <http://www.argentin-mura.com>
カンデラリア（高野太郎、当協会員）

■ 「各国大使館員が日本語でお国自慢シリーズ 『アルゼンチン編』

日時と講座内容：4月11日（火）、25日（火）、5月9日（火）、
23日（火）、6月13日（火）（19:00～20:30）
4/11 アルゼンチンの歴史と当世事情
4/25 アルゼンチンの音楽情報
5/9 アルゼンチンの食文化と人々の暮らし（大使公邸で）
5/23 アルゼンチンの芸術と文学
6/13 観光情報

会場：毎日新聞カルチャーシティ渋谷校（渋谷パルコ・パートII、
渋谷区宇田川町3-7）

講師：ルビオ・レイナ アルゼンチン大使館参事官

受講料：入会金5,000円、1回分2,900円、5回分13,500円

主催：（株）毎日新聞カルチャーシティ（03-3238-5280）

申込み：毎日新聞カルチャーシティ渋谷校（03-3477-8969）

■ 総会の開催について

（社）日本アルゼンチン協会の第44回総会は来る5月24日（水）午後2時30分より、日比谷ダイビル（4階ダイビル（株）会議室）で開催予定です。なお、役員、法人会員及び個人正会員各位には別途ご案内申し上げます。

■ 第41回海外日系人大会の開催

日時：5月10日（水）10:00、11日（木）、12日（金）

場所：シェンバッハ砂防（砂防会館）（千代田区平河町2-7-5）
参加費：10,000円

交通：半蔵門線、有楽町線、南北線永田町駅下車

連絡先：（財）海外日系人協会（TEL 3797-9291）

■ 会費の納入について

平成12年度の会費（法人会費、個人正会員費及び賛助会員費）につきまして、夫々請求書を会員各位宛に送付致しますので、何卒納入宜しくお願ひ申し上げます。なお、本年度から会費の振込みがあった場合は領収書の郵送は取り止めますのでご了承ください。別途必要なむぎは、お申し出があれば発行いたします。

■ SANCHIS MUÑOZ 前駐

日大使は、このほどアルゼンチン国立外交官研修所（INSTITUTO DEL SERVICIO EXTERIOR DE LA NACION）の校長に就任されました。

■ 渡部事務局長の辞任

今般、ミレニアムを機会に、また一身上の都合もあって、6年間務めさせていただいた事務局長を3月末で辞任しましたが、引き続き会員として宜しくご交誼の程

お願い申し上げます。これまで会員皆様から賜りましたご支援とご協力に対し心から御礼申し上げます。

（渡部 透）

お世話になりました。



日本人亞国移住史 日系団体連合会が編纂へ本腰

アルゼンチンではいくつかの日本人移住史が編纂されているが、いずれも地域別あるいは団体別のものばかりで、日系社会全体をまとめたものはない。「あと10年も経てばアルゼンチンへの戦前派移住者はいなくなるだろう」という声が聞かれる中にあって日本人のアルゼンチン移住史編纂の必要性が叫ばれているが、実体は掛け声だけに終わっている。

しかし、日本人会の理事が日本語のできない二世理事によつて占められるようになった今、一世健在のうちに少なくとも戦前の移住史だけでも作成を急がないと、日本人移住者の足跡が失われてしまうと憂慮する声が強くなっている。

そこで在亞日系団体連合会では、この際編纂事業に本腰を入れて取組むことになったもの。連合会では日系社会全体の協力を求め在亞日本人会倉庫に眠っている古い資料もを利用して全般的な移住史を作りたい考えである。

(ラプラタ報知紙より)

故近藤四郎副会長を偲ぶ会

元駐アルゼンチン大使、近藤四郎前副会長を偲ぶ会が、さる3月24日ひる、ホテルグランドヒル市ヶ谷で、盛大にかつしめやかに行なわれた。近藤さんのご遺志にそい、ミサクリオージャのメロディーのもとで黙祷のあと会食、タンゴの演奏（高野太郎タンゴ・カンデラリア）やフラメンコ舞踊（長嶺ヤス子）について友人代表による追悼談があった。

故人のお人柄を反映して235人もの参加者が一堂に会し、賑やかにありし日の近藤さんを偲んだ。

人事往来 (平成12年1月～3月)

来日

ライムンディ下院議員（外交委員会副委員長）
2月27日～3月5日（外務省招待）
マリオ坂田 PALLARO HNOS 社長
3月3日～12日（FOODEX 出展）
カセナベ経済省農牧水産食料庁次官
3月7日～11日（FOODEX 参加）
パルタ下院第三副議長
3月12日～21日（外務省招待）

会員を募集中です

特典：

☆ 年4回、最新のニュースや話題を盛り込んだレベルの高い会報を無料配布

☆ タンゴやフォルクローレ演奏会等の催物の会員割引

☆ 会員アーティスト主催の文化行事の割引ご案内

☆ 当協会主催の催物ご参加（実費徴収）、スペイン語講座（授業料会員割引）など

協会年会費：

法人会員一口 30,000円
(口数は無制限)

個人正会員 10,000円
(定款上総会の構成員、議決権有り)

賛助会員 5,000円
(議決権なし)

☆ 郵便振込口座：

00120-6-581381

☆ 住友銀行日比谷支店口座：

普通 215-99570

☆ 連絡先：事務局

TEL03-3501-4684

あとがき

次号（29号）は7月中旬発行予定です。会員各位の投稿、ご意見をお待ちしています。